

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年11月11日
【四半期会計期間】	第19期第2四半期（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）
【会社名】	バーチャレクス・コンサルティング株式会社
【英訳名】	Virtualex Consulting, Inc
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 丸山 栄樹
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号
【電話番号】	03(3578)5300
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 黒田 勝
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号
【電話番号】	03(3578)5300
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 黒田 勝
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第2四半期 連結累計期間	第18期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (千円)	1,921,505	3,865,034
経常利益 (千円)	81,213	251,459
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	53,858	253,700
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	53,413	253,538
純資産額 (千円)	843,486	669,736
総資産額 (千円)	1,459,080	1,375,511
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	19.16	92.42
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	18.86	-
自己資本比率 (%)	57.8	48.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	51,094	184,019
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	22,420	43,141
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	6,631	37,487
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	287,953	252,648

回次	第19期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.14

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第18期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。

4. 当社は、平成27年12月17日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期当期純利益金額を算定しております。

5. 当社は、第18期第2四半期連結累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、第18期第2四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。主要な関係会社における異動については、当社の親会社であったシンプレクス株式会社が、平成28年6月23日の当社マザーズ市場上場に際しての当社普通株式の募集及び引受人の買取引受による売出しの後、当社の親会社ではなくなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。なお、当社は、前第2四半期連結累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期連結累計期間との比較分析は行っていません。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策の効果もあり、企業収益や雇用情勢に改善が見られ、緩やかな回復基調が続きました。一方、個人消費の回復は弱く、中国やアジア新興国、資源国等の景気減速や円高の進行による輸出環境の悪化、英国のEU離脱問題に伴う世界経済への影響も懸念され、米国大統領選の行方や中東の情勢不安など依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループはクライアント企業がより戦略的で有効な顧客接点（チャンネル）を構築し、企業価値を最大化しうる顧客対応が実現できるよう当社の持つコンサルティング、IT、アウトソーシングのノウハウを活用したトータルな支援を行ってきました。

また、当第2四半期連結累計期間においては、東証マザーズ上場に伴う各費用等の発生に伴い、販売費及び一般管理費の一時的な支出が発生しました。

その結果、当2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,921,505千円、営業利益83,318千円、経常利益81,213千円、親会社株主に帰属する四半期純利益53,858千円となりました。

セグメントの業績は以下のとおりです。

IT&コンサルティング事業では、ストックビジネスであるCRM ITサービスは堅調に推移し、コンサルティングサービスは着実に新規案件を獲得するとともにプロジェクト採算性の向上に努めてきました。その結果売上高は842,802千円、セグメント利益は254,250千円となりました。

アウトソーシング事業では、既存顧客案件が堅調に推移しながら新規案件も始まり、売上高は1,078,703千円、セグメント利益は189,212千円となりました。

#### (2) 財政状態の分析

##### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ83,569千円増加し、1,459,080千円となりました。これは主に、売掛金が90,161千円増加したことによるものであります。

##### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ90,179千円減少し、615,594千円となりました。これは主に短期借入金90,000千円減少したことによるものです。

##### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益53,858千円を計上したことに伴い、利益剰余金が前連結会計年度末に比べ53,858千円増加し、マザーズ市場上場に伴う公募増資により資本金及び資本準備金がそれぞれ60,168千円増加したことから、843,486千円となりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は1,250千円です。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,980,000
計	10,980,000

## 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,865,000	2,865,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数100株
計	2,865,000	2,865,000	-	-

## (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日	-	2,865,000	-	553,951	-	514,944

## ( 6 ) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
シンプレクス株式会社	東京都港区虎ノ門1丁目2番3号	438,900	15.31
丸山 栄樹	東京都調布市	382,400	13.34
SBSホールディングス株式会社	東京都墨田区太平4丁目1番3号	140,400	4.90
バーチャレクス従業員持株会	東京都港区虎ノ門4丁目3番13号	131,300	4.58
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	118,700	4.14
黒田 勝	東京都調布市	90,000	3.14
丸山 勇人	東京都多摩市	86,000	3.00
松井証券株式会社	東京都千代田区麴町1丁目4番地	52,600	1.83
楽天証券株式会社	東京都世田谷区玉川1丁目14番1号	50,100	1.74
BNY FOR GCM CLIENT ACCOUNTS (E) BD (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	TAUNUSANLAGE 12, 60 262 FRANKFURT, GERMANY (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	46,000	1.60
計	-	1,536,400	53.58

## ( 7 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,864,400	28,644	-
単元未満株式	普通株式 600	-	-
発行済株式総数	2,865,000	-	-
総株主の議決権	-	28,644	-

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、当四半期報告書は、第2四半期に係る最初に提出する四半期報告書であるため、前年同四半期との対比は行っておりません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	252,648	287,953
売掛金	471,850	562,012
開発事業未収入金	40,953	40,590
仕掛品	12,729	7,527
前払費用	27,543	30,037
繰延税金資産	109,104	109,104
その他	2,791	1,193
流動資産合計	917,621	1,038,420
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	82,060	73,574
無形固定資産		
ソフトウェア	261,486	231,756
その他	3,820	4,653
無形固定資産合計	265,307	236,410
投資その他の資産	110,521	110,675
固定資産合計	457,889	420,660
資産合計	1,375,511	1,459,080
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	27,294	52,518
短期借入金	100,000	10,000
1年内返済予定の長期借入金	33,336	33,336
未払金	227,279	237,800
未払法人税等	54,076	38,185
賞与引当金	106,995	85,925
その他	109,905	132,835
流動負債合計	658,887	590,600
<b>固定負債</b>		
長期借入金	41,662	24,994
その他	5,224	-
固定負債合計	46,886	24,994
負債合計	705,774	615,594

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	493,783	553,951
資本剰余金	454,776	514,944
利益剰余金	279,451	225,592
株主資本合計	669,107	843,302
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	628	184
その他の包括利益累計額合計	628	184
純資産合計	669,736	843,486
負債純資産合計	1,375,511	1,459,080

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 千円 )

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 9 月30日)
売上高	1,921,505
売上原価	1,460,513
売上総利益	460,992
販売費及び一般管理費	377,673
営業利益	83,318
営業外収益	
受取利息及び配当金	6
その他	63
営業外収益合計	69
営業外費用	
支払利息	795
株式交付費	781
支払手数料	596
営業外費用合計	2,174
経常利益	81,213
税金等調整前四半期純利益	81,213
法人税等	27,355
四半期純利益	53,858
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	53,858

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成28年4月1日  
至平成28年9月30日)

四半期純利益	53,858
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	444
その他の包括利益合計	444
四半期包括利益	53,413
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	53,413
非支配株主に係る四半期包括利益	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	81,213
減価償却費	57,468
資産除去費用	2,901
賞与引当金の増減額(は減少)	21,070
受取利息及び受取配当金	6
支払利息	795
支払手数料	596
株式交付費	781
売上債権の増減額(は増加)	90,161
開発事業未収入金の増減額(は増加)	362
たな卸資産の増減額(は増加)	5,201
前払費用の増減額(は増加)	2,493
仕入債務の増減額(は減少)	37,623
未払費用の増減額(は減少)	3,722
未払消費税等の増減額(は減少)	3,059
前受金の増減額(は減少)	19,783
預り金の増減額(は減少)	4,840
その他	1,500
小計	98,674
利息及び配当金の受取額	6
利息の支払額	796
手数料の支払額	596
法人税等の支払額	46,194
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>51,094</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	3,063
無形固定資産の取得による支出	18,901
投資有価証券の取得による支出	305
保険積立金の積立による支出	149
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>22,420</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額(は減少)	90,000
長期借入金の返済による支出	16,668
ファイナンス・リース債務の返済による支出	6,254
株式の発行による収入	119,554
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>6,631</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	35,305
現金及び現金同等物の期首残高	252,648
現金及び現金同等物の四半期末残高	287,953

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益へは影響ありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
役員報酬	51,690千円
給与	70,878
賃借料	42,094
賞与引当金繰入額	14,367

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	287,953千円
現金及び現金同等物	287,953

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成28年6月23日付で、東京証券取引所マザーズ市場に上場した際に120,000株の公募増資を実施いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ60,168千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が553,951千円、資本剰余金が514,944千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	IT&コンサルティング事業	アウトソーシング事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	842,802	1,078,703	1,921,505	1,921,505
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	842,802	1,078,703	1,921,505	1,921,505
セグメント利益	254,250	189,212	443,462	443,462

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	443,462
(注) 全社費用	360,144
四半期連結損益計算書の営業利益	83,318

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	19円16銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	53,858
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額(千円)	53,858
普通株式の期中平均株式数(株)	2,811,229
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金 額	18円86銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-
普通株式増加数(株)	43,437
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかつ た潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変 動があったものの概要	-

(注) 当社は、平成28年6月23日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しているため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、新規上場日から当第2四半期会計期間末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月11日

バーチャレクス・コンサルティング株式会社  
取締役会 御中

## 太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柏木 忠 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹原 玄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているバーチャレクス・コンサルティング株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、バーチャレクス・コンサルティング株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。